

2024年1月6日(土)

活動隊員：酒井彰久、斎藤正子、藤田さやか、酒井明子

#### 1. 活動日時

令和6年1月6日(土) 7:00~19:00

#### 2. 活動場所

珠洲市健康増進センター、正院小学校、蛸島小学校

#### 3. 被害状況(消防庁情報 5日7時30分現在)

人的被害：石川県死者94名、倒壊による生き埋めなど安否確認中

住家被害：建物全壊293棟、半壊51棟、一部損壊916棟、床上浸水6棟、床下浸水5棟

#### 4. 天候

晴れのち雨 最高気温13℃ 最低気温4℃

#### 5. 活動の実際

8:00 珠洲市健康増進センター・保健医療福祉調整本部にて朝のミーティング

9:00 正院小学校・蛸島小学校を巡回

正院小学校：避難者316人(行方不明者は女性2名)うち、車中泊や自宅避難者の数は減っているという報告であったが、食事配給数でカウントしており、実際の避難者名簿は未完成である。避難所マネジメントは地域のリーダーや学校関係者などで明確に役割分担し組織化されていた。また、外部支援の炊き出しが導入されており、徐々に避難者に役割移行する方針で準備中である。小学校高学年・中学生・高校生の児童生徒が「正院っ子」というチームを構成し、元教諭の指導のもと避難所新聞の作成、エコノミークラス症候群予防のための体操の音頭をとるなど活躍している。医療・介護班は、避難者で看護師免許を保有するものと保健師で構成され、健康・生活面の視点から、他班へのアドバイスを実施したり、要介護・要医療者の把握を行っていた。避難所の環境面では、電気は開通。断水は継続しているが、本日、簡易水道が1ヶ所作られた。これまでは2km程度離れた神社の井戸水を生活用水として消防団が汲み取りをしていた。仮設トイレは玄関外に3基(男1・女2)、校舎内のトイレに災害用簡易トイレを設置していたが、カーテンで仕切っただけの状況。本日、「ラップポン」が導入されることになったため、看護職でトイレ掃除を実施した。避難者の多くは高齢者で1階には介護度の高い避難者が生活している。服薬中断により認知症症状や精神症状が悪化している方、避難時などの受傷後で処置が必要な方がおり、本日の日赤医療班の巡回診療時に情報共有した。また、医療班の医師と看護師と共に、避難所環境の改善について運営者にアドバイスし、子どものフリースペース(学習・遊び)が作成され、早速子どもたちが集まってゲームをしたり談笑している様子が見られた。また、1階生活スペースを土足禁止とするため、一斉に掃除を実施した。近々、全ての避難者に段ボールベッドを導入する方向で、区画整理を医療・介護班中心で行っているところである。看護職では、ボディタオルをお湯で温めて配布して、清拭を実施した。顔だけを拭く方、男性の中には全身を拭く方と様々であったが、「6日間お風呂に入っていないから気持ちいい」「さっぱりする」などポジティブな反応が見られた。

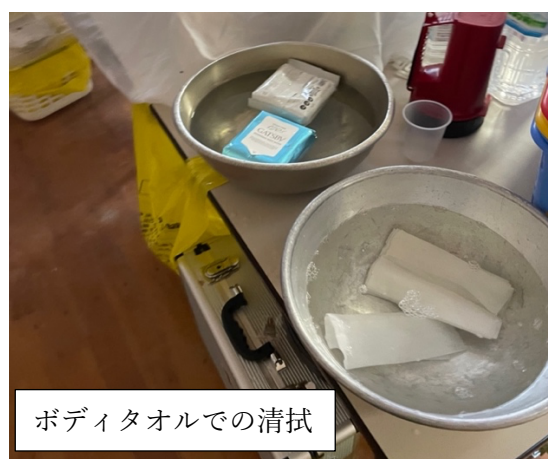
蛸島小学校：住民が 300 人程度に減少してきた。福祉避難場所を家庭室（家庭科室）に設置し、要介護者 3 名を体育館や教室棟から集め、テントのパーティションを設置した。また、そのうちの 1 名に排泄介助を行った際に褥瘡の発生があり、本日の巡回診察に繋ぐことにした。午後から日赤 DMAT の巡回診療が行われ、慢性呼吸器疾患で HOT を使用中の被災者が、発熱と呼吸状態が悪く救急搬送となった。また、避難所環境の改善のアドバイスを受け、土足の禁止、ダンボールベッドの導入を提案され改善予定である。本日はラップポン 1 台が体育館の倉庫に設置がされた。水道は不通であるが、手洗い場にポリタンクが設置され手洗いができるよう改善されていた。

被災者の健康状態が、日々変化している。また、被災者でもある支援者の疲労がピークになってきている。

## 6. 考察

発災から 5 日目となり徐々に避難者の疲労が見え始めている。ほぼ不眠で活動を続けている避難者の方もおり、休息できるよう外部による支援が求められる。高齢化率が 50% を超えている避難所もあり、認知症や寝たきりの避難者に対して、避難所内の看護職が対応している現状もある。発災直後の緊迫している状況を脱しつつある中で、避難所環境の改善が求められる。入浴支援は徐々に入っていると情報があるが、今回の避難所ではいつ入るか未定の状況である。清潔用品についても要望するとともに、できる物品で清潔ケアの支援に入っていく。また、他機関からの協力をいただきながら避難所について再度環境のアセスメントを行った。アセスメント結果をもとに、避難所の担当とともに明日より改善に向けて取り組んでいく。また、在宅避難においても酸素ボンベの不足が懸念される方といったように深刻な状況が続いており、避難所支援とともに在宅支援についても取り組んでいく必要がある。

## 7. 参考写真



避難所運営者・医療チームとの連携

